

新桂沢ダムモニタリング部会 第4回部会 議事概要

開催日時	令和8年1月22日（水） 15：00～17：00
開催場所	アスティ45 12階 1206会議室
出席者	池田委員、岩崎委員、大原委員、岡村委員、玉田委員、中井委員、○松井委員、眞山委員 計8名 （○：部会長、敬称略、五十音順）
1. 議題 (1) 議題1 モニタリング調査計画の概要 ・ 主なご意見なし。 (2) 議題2 モニタリング調査結果（令和7年12月時点） ・ 植生調査について、評価から今後の方針へと流れが分かるような記載をしてほしい。また、毎木調査の実施について、前向きに検討してほしい。 ・ 猛禽類調査について、10年に1回の河川水辺の国勢調査（以下、水国）では、猛禽類の生息状況が分からないので、水国調査時に、繁殖前の3月頃と幼鳥の巣立ち直後の8月～9月頃に追加で調査を行うとよい。 ・ ムカシトンボは、水国で個別に調査はされないため、評価や今後の方針については、モニタリング部会内でしっかりとまとめていく必要がある。 ・ エゾサンショウウオについては、移植した個体が定着したものではなく、生存している個体の確認であろう。短期間ではなく、長期的な視点が重要になってくるため、「定着」という言葉の使い方に留意するとよい。 ・ ダム工事は、生息環境や個体の消失はある程度想定されるため、生息環境の復元や生息の確認に重点を置くことも重要であると考えます。 ・ 魚類は、桂沢ダムにおける水国のデータが存在しているため、前後の変化を捉えやすい。その際に、コイやワカサギ、ヤマメ等の放流由来の種の増減については、人為的な影響も考えられることから、注意が必要である。 ・ ニホンザリガニについても、ムカシトンボと同様に水国の中で個別項目としての調査ができないため、フォローアップ調査、水国調査の計画を立案するにあたって、議論していく必要がある。 ・ 景観については、今回の嵩上げにより、一番変化が見られた項目である。ダムの変化を一般の方に向けてアピールしていくのに、案内板やサインポストの設置を検討するとよい。 ・ 昆虫類調査について、令和4年と令和7年で種数に大きな差ができています。ライトトラップは、天候条件が重要になってくるため、両年度の気候条件も整理することで、増加要因を特定できる可能性がある。 ・ アセス時の予測とモニタリング調査結果がどの程度一致しているのかを検証すると、今後の他ダム事業に参考となるため、実施を検討するとよい。 ・ 洪水調節については、ダムのありなしではなく、新旧での比較ができると、より鮮明に嵩上げの評価ができ、可能であれば実施してほしい。 (3) 議題3 次年度以降のモニタリング調査計画（案） ・ 哺乳類調査について、評価するために収集すべきデータの選定が難しい。種が生息しているかどうかを調査するのであれば、今の計画で十分だが、ダムの貯水池拡大の影響を見たい場合は、評価する種をピックアップして、評価を行うとよい。 ・ 景観調査については、ダム湖の奥の人が入れないような箇所がどのようになっているのかをドローンや船上からの撮影により、補完できる計画になるとよい。 以上	